

イーストスプリング・ インド公益インフラ債券ファンド (毎月決算型) / (年2回決算型)

(毎月決算型)

第10期末(2016年1月12日)	
基準価額	9,691円
純資産総額	26,041百万円
第5期～第10期 (2015年7月11日～2016年1月12日)	
騰落率	△3.7%
分配金合計	270円

(年2回決算型)

第2期末(2016年1月12日)	
基準価額	9,847円
純資産総額	8,609百万円
(2015年7月11日～2016年1月12日)	
騰落率	△3.8%
分配金合計	0円

(注)騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記[お問い合わせ先]ホームページアドレスにアクセス⇒上部「運用状況」のタブを選択⇒「運用状況一覧」ページを表示⇒当ファンド記載の中にある「運用報告書(全体版)」を選択

追加型投信 / 海外 / 債券

(毎月決算型)

第5期(決算日2015年8月10日) 第8期(決算日2015年11月10日)
第6期(決算日2015年9月10日) 第9期(決算日2015年12月10日)
第7期(決算日2015年10月13日) 第10期(決算日2016年1月12日)

(年2回決算型)

第2期(決算日2016年1月12日)

作成対象期間(2015年7月11日～2016年1月12日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型) / (年2回決算型)」は、2016年1月12日に決算を行いました。

当ファンドは、主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に実質的に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社 [お問い合わせ先]

電話番号: 03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

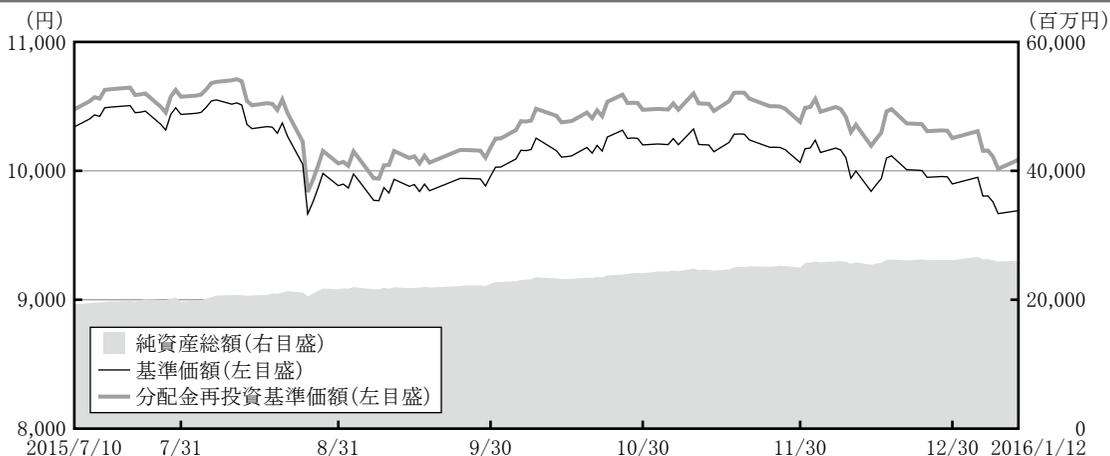
ホームページアドレス: <http://www.eastspring.co.jp/>
〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

運用経過

(毎月決算型)

基準価額等の推移について(第5期～第10期:2015年7月11日から2016年1月12日まで)



第5期首	10,341円
第10期末	9,691円(既払分配金270円)
騰落率	△3.7%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の変動要因

インドの債券の利回りがやや低下(価格は上昇)したことやクーポン収入が基準価額の上昇要因となりました。一方、為替市場で2015年8月および2016年1月に、投資家のリスク回避姿勢が強まりインドルピー安円高となったことなどが基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

項目	第5期～第10期 2015/7/11 ～2016/1/12		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	85円	0.845%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、10,074円です。
(投信会社)	(41)	(0.412)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(41)	(0.412)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	6	0.063	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.015)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(5)	(0.045)	外国人投資家に対する国債投資枠を取得するための入札費用等
合計	91	0.908	

(注1) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

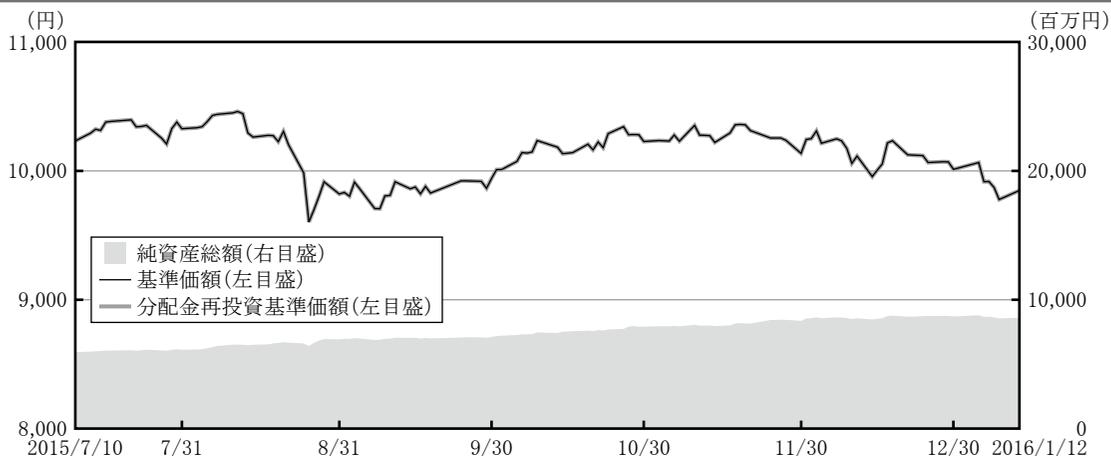
決算日		2015/2/10(設定日)	2016/1/12
基準価額	(円)	10,000	9,691
期間分配金合計(税込み)	(円)	—	405
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	0.9
純資産総額	(百万円)	586	26,041

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は、当初元本を用いています。

運用経過

(年2回決算型)

基準価額等の推移について(第2期:2015年7月11日から2016年1月12日まで)



第2期首	10,232円
第2期末	9,847円(既払分配金0円)
騰落率	△3.8%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 最初の分配金が出るまでの期間においては、基準価額を示す折れ線と分配金再投資基準価額を示す折れ線は重なって表示されます。

基準価額の主な変動要因

インドの債券の利回りがやや低下(価格は上昇)したことやクーポン収入が基準価額の上昇要因となりました。一方、為替市場で2015年8月および2016年1月に、投資家のリスク回避姿勢が強まりインドルピー安円高となったことなどが基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2015/7/11 ～2016/1/12		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	85円	0.845%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、10,077円です。
(投信会社)	(41)	(0.412)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(41)	(0.412)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	7	0.065	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.015)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.006)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(5)	(0.045)	外国人投資家に対する国債投資枠を取得するための入札費用等
合計	92	0.910	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 最初の分配金が出るまでの期間においては、基準価額を示す折れ線と分配金再投資基準価額を示す折れ線は重なって表示されます。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

決算日		2015/4/10(設定日)	2016/1/12
基準価額	(円)	10,000	9,847
期間分配金合計(税込み)	(円)	—	0
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	△1.5
純資産総額	(百万円)	1	8,609

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は、当初元本を用いています。

投資環境について

○海外債券市況

インド債券市場では、10年国債利回りが期初から2015年9月下旬にかけて緩やかに低下（価格は上昇）しました。この間、8月に中国の景気減速を発端とした世界景気の悪化懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まる局面がありましたが、インド国債市場では大きな動揺は見られませんでした。その後、9月29日の金融政策決定会合でインド準備銀行（中央銀行、RBI）が市場予想を上回る0.5%の利下げを決定すると、10年国債利回りは急低下しました。またRBIが、これまでほとんど消化されていた外国人投資家に対する国債投資枠の引上げを発表したことを受けて、外国人投資家の資金が国債市場に流入するとの期待が高まって買いが膨らむ展開となりました。10月から12月中旬にかけては、米国の年内利上げへの警戒感から10年国債利回りはじりじりと上昇（価格は下落）しました。実際に12月中旬の米連邦公開市場委員会（FOMC）で7年間に及ぶ米国の実質ゼロ金利政策の解除が決定されると、不透明感が後退したとの見方から買い戻す動きが見られました。相対的に格付けが高い社債の国債に対する利回りスプレッドは小動きとなりました。

○為替市況

インドルピーは、2015年8月の中国の景気減速を発端とした世界景気の悪化懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まった局面で対米ドル、対円ともに下落しました。その後、一時反発する動きも見られましたが、2016年に入って再び投資家のリスク回避姿勢が強まり対米ドル、対円ともに一段安となりました。

ポートフォリオについて

○イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)

当ファンドは、イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券への投資を通じて主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に投資しました。

○イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド

主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指した運用を行いました。マクロ経済分析および金利分析に加え、個別発行体に対するクレジット調査に基づく銘柄選択により、ポートフォリオの構築を行いました。当（作成）期は、素材・コモディティや電力・公益、港湾・空港セクターの一部の銘柄の保有がプラス要因となりました。インフラ金融（農業関連）、道路・鉄道セクターなどの銘柄を中心に、利回りの面で魅力的な社債の買付けを行いました。また、流動性などを考慮し、インド国債の買い増しも行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(毎月決算型)

分配原資の内訳

(1万口当たり、税引前)

項目	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
	2015年7月11日 ～2015年8月10日	2015年8月11日 ～2015年9月10日	2015年9月11日 ～2015年10月13日	2015年10月14日 ～2015年11月10日	2015年11月11日 ～2015年12月10日	2015年12月11日 ～2016年1月12日
当期分配金 (円)	45	45	45	45	45	45
(対基準価額比率) (%)	0.426	0.456	0.441	0.439	0.451	0.462
当期の収益 (円)	45	44	45	45	41	45
当期の収益以外 (円)	—	0	—	—	3	—
翌期繰越分配対象額 (円)	559	564	582	585	585	588

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

(年2回決算型)

分配原資の内訳

(1万口当たり、税引前)

項目	第2期
	2015年7月11日 ～2016年1月12日
当期分配金 (円)	—
(対基準価額比率) (%)	—
当期の収益 (円)	—
当期の収益以外 (円)	—
翌期繰越分配対象額 (円)	458

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

○イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)

引き続きイーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券を高位に組入れることにより、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。

○イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド

インド経済については、強気の長期見通しを維持しています。経常赤字の大幅な縮小や外貨準備の積み増しなどのファンダメンタルズの改善により、外的ショックに対する耐性が高まっており、通貨ルピーは相対的に安定した動きとなっています。原油を中心にした商品市況の低迷とインフレの落ち着きなどから、追加利下げが行われる余地があり、債券市場の支援材料となるものと考えられます。引き続き、安全性や流動性を重視しつつ、機動的なデュレーション管理と個別発行体に対するクレジット調査に基づく銘柄選択により、収益の最大化を目指して運用を行って参ります。

お知らせ

該当事項はありません。

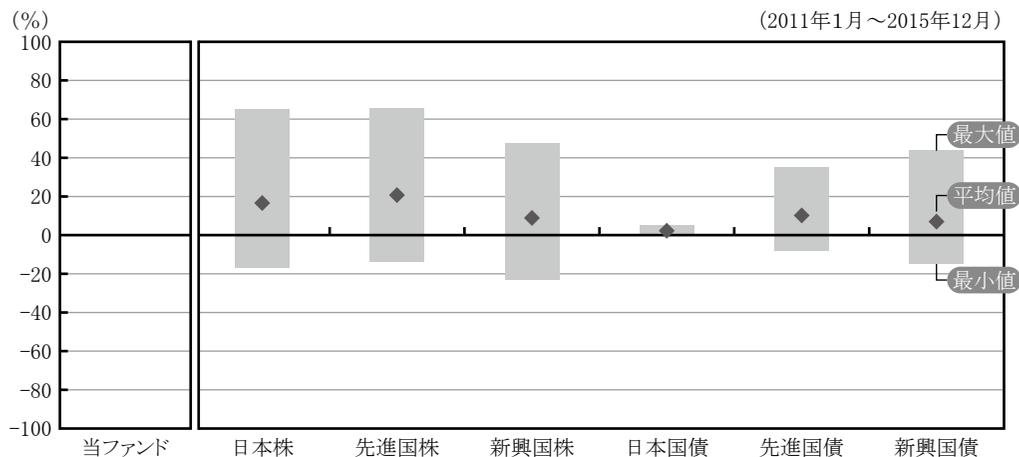
当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	(毎月決算型) 2015年2月10日から2025年1月10日まで (年2回決算型) 2015年4月10日から2025年1月10日まで	
運用方針	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてインドの公益およびインフラ関連の債券(以下「公益インフラ債券」)に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	インドの公益インフラ債券を主要投資対象とします。
投資制限	イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)	<ul style="list-style-type: none"> 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	(毎月決算型) 原則として毎月10日(休業日の場合は翌営業日) (年2回決算型) 原則として、毎年1月10日および7月10日(休業日の場合は翌営業日)各ファンドの毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(毎月決算型)



(%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-	16.6	20.7	8.8	2.3	10.2	6.9
最大値	-	65.0	65.6	47.3	4.5	34.9	43.7
最小値	-	-17.0	-13.7	-22.9	0.4	-7.9	-15.0

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2011年1月から2015年12月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※当ファンドは設定から1年を経過していないため、ファンドの年間騰落率は記載していません。

<各資産クラスの指数>

日本株: 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

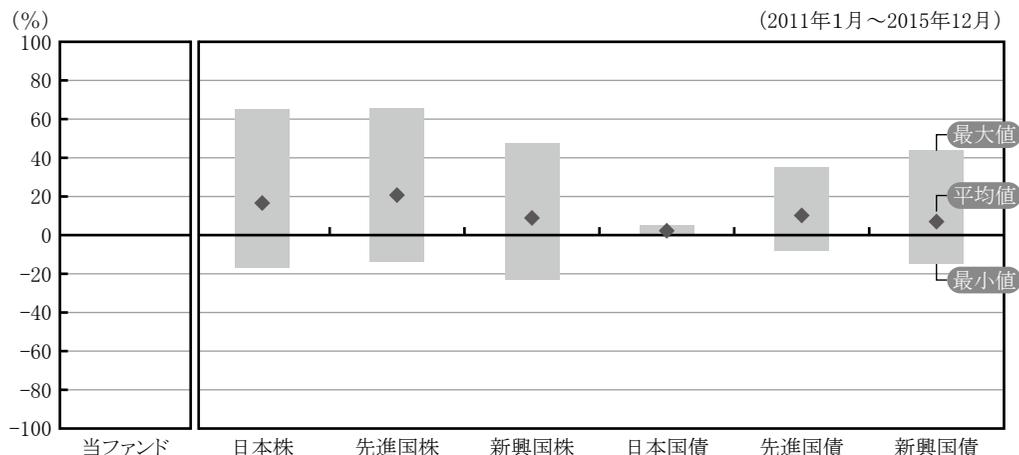
新興国債: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(年2回決算型)



(%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-	16.6	20.7	8.8	2.3	10.2	6.9
最大値	-	65.0	65.6	47.3	4.5	34.9	43.7
最小値	-	-17.0	-13.7	-22.9	0.4	-7.9	-15.0

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2011年1月から2015年12月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※当ファンドは設定から1年を経過していないため、ファンドの年間騰落率は記載していません。

<各資産クラスの指数>

日本株: 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

(毎月決算型)

当ファンドの組入資産の内容

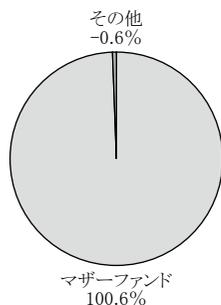
○組入ファンド

(組入銘柄数: 1銘柄)

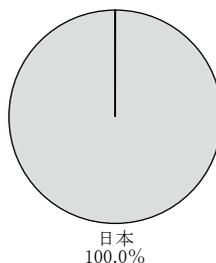
ファンド名	第10期末 2016年1月12日
イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	100.6%

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

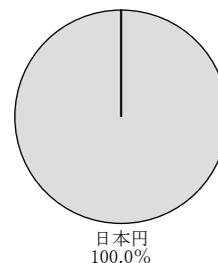
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 資産別配分において、未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第5期末 2015年8月10日	第6期末 2015年9月10日	第7期末 2015年10月13日	第8期末 2015年11月10日	第9期末 2015年12月10日	第10期末 2016年1月12日
純資産総額	20,709,560,334円	21,702,688,392円	23,310,325,353円	24,582,685,946円	25,585,352,557円	26,041,408,768円
受益権総口数	19,689,562,571口	22,083,406,688口	22,951,309,612口	24,089,392,322口	25,731,379,439口	26,870,682,017口
1万円当たり基準価額	10,518円	9,828円	10,156円	10,205円	9,943円	9,691円

* 当作成期中(第5期～第10期)において追加設定元本額は10,585,810,179円、一部解約元本額は2,362,030,806円です。

ファンドデータ

(年2回決算型)

当ファンドの組入資産の内容

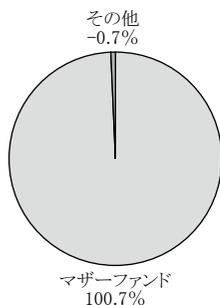
○組入ファンド

(組入銘柄数: 1銘柄)

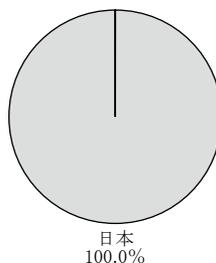
ファンド名	第2期末 2016年1月12日
イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	100.7%

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

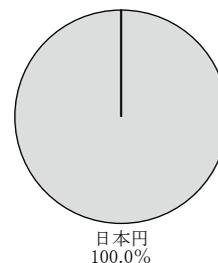
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 資産別配分において、未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第2期末 2016年1月12日
純資産総額	8,609,744,617円
受益権総口数	8,743,097,863口
1万口当たり基準価額	9,847円

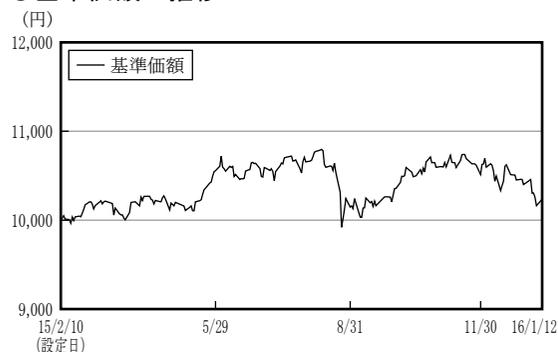
* 当期中において追加設定元本額は3,639,487,311円、一部解約元本額は694,985,107円です。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド

(計算期間 2015年2月10日～2016年1月12日)

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

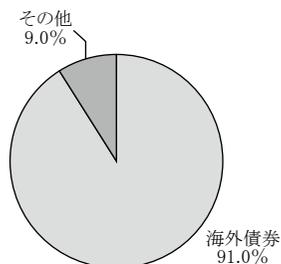
項目	金額
(a) その他費用 (保管費用)	14円 (3)
(その他)	(11)
合計	14

○組入上位10銘柄

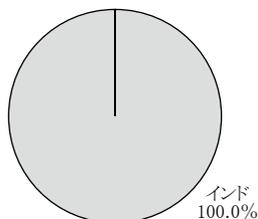
(組入銘柄数:60銘柄)

銘柄名	種別	国・地域	比率
INDIA GOVERNMENT	国債	インド	5.5%
RELIANCE UTILITIES AND POWER LTD	社債	インド	5.3%
PUNJAB NATIONAL BANK	社債	インド	4.7%
NABARD	社債	インド	4.6%
RURAL ELECTRIFICATION	社債	インド	4.5%
NTPC LTD	社債	インド	4.4%
AXIS BANK LTD	社債	インド	4.3%
RELIANCE PORTS AND TERMINALS	社債	インド	4.2%
POWER FINANCE CORP	社債	インド	4.1%
TATA STEEL LTD	社債	インド	4.1%

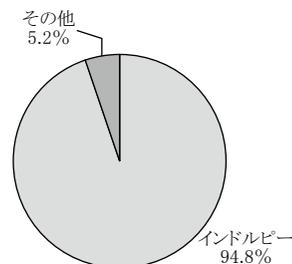
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。2ページの項目の概要および注記をご参照ください。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2016年1月12日現在のものです。

(注4) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- 東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- MSCI指数(MSCIコクサイ・インデックス、MSCIエマージング・マーケット・インデックス)はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- NOMURA-BPIは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。
- シティ世界国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権は、Citigroup Index LLCに帰属します。
- JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)はJ.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。